

令和4年度 中学校教育研究会 公開授業

社会科学習指導案

指導者 北信教育事務所学校教育課 指導主事 内川 啓 先生
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 准教授 篠崎 正典 先生
日 時 令和4年5月13日(金)
授業学級 2年B組(40名)
授業会場 2年B組
小单元名 「人口偏在を通して捉える関東地方の地域的特色」
授業者 富田 武

- 1 社会科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会1
- 2 教科としての全校研究テーマの受け止め・・・・・・・・・・・・・社会1
- 3 小单元名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会1
- 4 小单元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会1
- 5 小单元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会2
- 6 社会科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・・・・・・社会2
- 7 小单元に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会2
- 8 小单元展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・社会8

信州大学教育学部附属長野中学校 社会科

研究者 富田 武 武井 正樹
相良 真輝 丸山 進一

1 社会科の研究テーマ

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方

2 教科としての全校研究テーマの受け止め

「地球的課題を通して捉える世界各地の地域的特色」・1年（令和3年10月）では、人口問題からアジア州の地域的特色を捉える学習を構想した。そこでは、「自然環境」、「人口や都市・農村」、「産業」、「交通や通信」、「歴史・文化」の視点で「Asian board」にまとめた情報を基に、アジア州で見られる人口問題の要因や影響を、概観した地域的特色と関連付けて考察し、表現する展開を位置付けた。

H生は、「Asian board」にまとめた情報を基に、中国、インド、西アジア、東南アジアの人口分布の偏りの要因や影響について考察し、自分の考えをまとめることができた。このようなH生の姿は、「地理的な見方・考え方」を働かせ、人口問題からアジア州の地域的特色を捉えることができた姿であり、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高めた姿と捉える。（研究紀要 社会9～12）

小単元の終末、アジア各地でみられる「人口分布の偏り」の要因や影響を日本や身近な地域に当てはめて考察し、学習を振り返る活動を位置付けた。H生は、身近な地域でも、人口分布に偏りが見られるが、人口が減少していることから、アジア州のような人口増加による経済発展はできないと考えた。これらのH生の姿は、人口問題からアジア州を捉え、日本や身の回りの地域で起きている人口問題に気付くとともに、これから学習する「日本の諸地域」や「地域の在り方」に対する関心を高めることができた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。（研究紀要 社会12～13）

日本の諸地域の学習における本小単元「人口偏在を通して捉える関東地方の地域的特色」・2年では、都心への人口集中と、それに関連する特色ある事象から設定した課題を追究する。そのために教師は、必要な情報を選択・整理して「私の風土記（関東編）」にまとめ、人口偏在の要因や影響、持続可能な地域づくりに向けた取組などについて考察し、表現する展開を位置付ける。このようにすることで、生徒は「地理的な見方・考え方」を働かせ、人口偏在から関東地方の地域的特色を捉えることができると考えた。

また、人口偏在を通して捉えた関東地方と中国・四国地方の地域的特色を対比して、人口偏在の要因や影響を人々の営みと関連付けて解釈したことを基に、世界の諸地域で見られる人口偏在に当てはめて考察する活動を位置付ける。このようにすることで、生徒は、人口偏在に見られる一般的共通性と地方的特殊性を理解することができると考えた。

上記のような学習を積み重ねていくことで、社会科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考えた。

3 小単元名・学年 「人口偏在を通して捉える関東地方の地域的特色」・2年

4 小単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【C(3)ア(7)(イ)】

- ①関東地方について、都心とその周辺との間で見られる人口偏在や、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組があることを理解することができる。
- ②「人口や都市・農村」を中核とした考察の仕方に取り上げた人口偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と、それに関連する特色ある事象の様子や、そこで生ずる課題を理解することができる。
- ③人口偏在の成立条件や持続可能な地域づくりに向けた取組について、資料を基に「私の風土記（関東編）」にまとめることができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【C(3)イ(7)】

関東地方において、「関東地方では、なぜ都心に人口が集中し、人々の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。」を、都心とその周辺の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、「人口や都市・農村」に関連する特色ある事象の様子、そこでの人口偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる人口偏在の成立条件や持続可能な地域づくりに向けた取組を主体的に追究しようとする。

5 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 関東地方について、都心とその周辺</p> <p>① との間で見られる人口偏在や、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組があることを理解している。</p> <p>② 「人口や都市・農村」を中核とした考察の仕方を取り上げた人口偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と、それに関連する特色ある事象の様子や、そこで生ずる課題を理解している。</p> <p>技 人口偏在の成立条件や持続可能な地域づくりに向けた取組について、資料を基に「私の風土記（関東編）」にまとめている。</p>	<p>思 関東地方において、「関東地方の人々の暮らしは、都心への人口集中によってどのように変化してきたのだろうか。」を、都心とその周辺の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、「人口や都市・農村」に関連する特色ある事象の様子、そこでの人口偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>態 関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる人口偏在の成立条件や持続可能な地域づくりに向けた取組を主体的に追究しようとしている。</p>

6 社会科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点1に関わる仮説

- ・都心への人口集中と、それに関連する特色ある事象から設定した課題を追究するために、必要な情報を選択・整理して「私の風土記（関東編）」にまとめ、人口偏在の要因や影響、持続可能な地域づくりに向けた取組などについて考察し、表現する展開を位置付ける。このようにすることで「地理的な見方・考え方」を働かせ、人口偏在から関東地方の地域的特色を捉えることができる。（小単元）
- ・「都心への人口集中」に関連する特色ある事象を決め出した根拠やその事象同士のつながりに着目して、友と情報交換し、小単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる活動を位置付ける。このようにすることで、人口偏在から関東地方の地域的特色を捉えることができる。（本時）

(2) 重点2に関わる仮説

- ・人口偏在を通して捉えた関東地方と中国・四国地方の地域的特色を対比して、人口偏在の要因や影響を人々の営みと関連付けて解釈したことを基に、世界の諸地域で見られる人口偏在に当てはめて考察する活動を位置付ける。このようにすることで、人口偏在に見られる一般的共通性と地方的特殊性を理解することができる。

7 小単元に寄せた教材化

ア 我が国の国土に関する地理的認識を深めるための単元構成と中核とする考察の仕方

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、本単元「日本の諸地域」について、「空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域の特色ある地理的

な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できるようにすることが求められている。」と示されている。さらに各地域を学習する順序についても「生徒の習熟度や関心、中核となる事象の捉えやすさや地域の課題の見だしやすさなど、各学校の実態に応じて決定し、この中項目の学習を通して、我が国の国土に関する地理的認識を深めることができるようにすることが大切である。」と示されている。そこで本校社会科では、取り上げる七地方の順序と中核とする考察の仕方の組み合わせや小単元の学習問題（問い）を検討し、表 1・2 のように本単元を構成した。

表 1 中核とする考察の仕方と小単元の学習問題（問い）、時数 ※扱う順番で記載

地域名	中核とする考察の仕方	小単元の学習問題（問い）	時数
北海道地方	自然環境	北海道地方の人々は、厳しい寒さの中で、どのように暮らしているのだろうか。	5
九州地方	自然環境	九州地方の人々は、多発する自然災害の中で、どのように暮らしているのだろうか。	5
関東地方	人口や都市・農村	関東地方では、なぜ都心に人口が集中し、人々の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。	5
中国・四国地方	人口や都市・農村	中国・四国地方では、なぜ山間部の人口が減少し、人々の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。	4
東北地方	交通や通信	東北地方の人々の暮らしは、交通網の整備によってどのように変化してきたのだろうか。	4
近畿地方	産業	なぜ近畿地方は、修学旅行の行き先として選ばれるのだろうか。	4
中部地方	産業	なぜ中部地方では、様々な産業がさかんになったのだろうか。	6

本単元で学習する日本の諸地域では、中核となる事象に関わる小単元の学習問題（問い）を設定（表 1）し、生徒が、自ら中核となる事象と関連する特色ある事象を関わらせて考察することで、多面的・多角的

表 2 中核となる事象（地域の課題）と関連する特色ある事象

地域名	中核となる事象（地域の課題）	関連する特色ある事象
北海道地方	厳しい寒さ	産業・歴史的背景
九州地方	自然災害	産業・防災
関東地方	都心への人口集中	産業・交通・再開発
中国・四国地方	山間部の人口減少	自然環境・産業・交通
東北地方	交通網の整備	自然環境・産業・文化
近畿地方	産業の発展	観光・交通・歴史的背景・文化
中部地方	産業の維持	自然環境・交通・歴史的背景・文化

に地域的特色を捉えていくことができるのではないかと考えた。そのため、単元が進むにつれて関連する特色ある事象が増えていくような単元を構成した（表 2）。本単元では、まず、北海道地方を「自然環境」を中核とした考察の仕方を取り上げる。北海道地方の厳しい気候条件についてはニュース等で取り上げられるため、生徒はイメージをもちやすい。また「自然環境」と「産業」を関わらせて考えやすく、単元の導入に適している。二つ目の九州地方も「自然環境」を中核とした考察の仕方を用いる。生徒は、北海道地方との共通点や相違点を対比し、「自然環境」に農業などの「産業」を関わらせて九州地方の地域的特色を捉えていく。そして、三つ目の関東地方を「人口や都市・農村」を中核とした考察の仕方を取り上げ、都心への人口集中から地域的特色を捉えていく。関東地方における人口の集中の要因と影響を追究していく中で、「産業」、「交通」、「再開発」などの事象と関連させていく。中国・四国地方、東北地方、近畿地方においても、上記の三つの地域と同様に、表 1 に示した中核となる事象とそれに関連する特色ある事象を関わらせて、地域的特色を捉えていくようにする。

最後に中部地方を「産業」を中核とした考察の仕方を取り上げる。近畿地方の大阪市・京都市・神戸市と同じように、中部地方においても北陸・中央高地・東海のそれぞれの

地域で特色ある産業が見られる点や、中核となる事象と関連する特色ある事象が多岐に渡ることから、多面的・多角的に考察する力が高まっている単元の終末に扱うことが望ましいと考えた。

時数については、初めの三地方において時数をかけて地域的特色を考察する視点や方法を身に付けることで、中国・四国地方・東北地方・近畿地方では、時数をかけずに考察することができる考えた。また最後の中部地方は、学校の所在地を含んでいるため、次单元「地域の在り方」を見据えて、6時間扱いとした。

イ ワークシート「私の風土記（【地域名】編）」を用いる価値

本单元では、生徒が、各地方の地域的特色を捉えるためのワークシート「私の風土記（【地域名】編）」を用いる。ここでは本小单元で扱う「私の風土記（関東編）」（図1）を例に挙げて説明する。「私の風土記（関東編）」の構成は、学習する地域にもつイメージと小单元の学習問題（図1①）、白地図（図1②）、情報を整理する欄（図1③）、位置（図1④）、行政区分と地形（図1⑤）、小单元の学習問題に対する自分の考えをまとめる欄（図1⑥）とする。関東地方以外の地方を学習する際にも「私の風土記（【地域名】編）」を同様の構成で用いる。

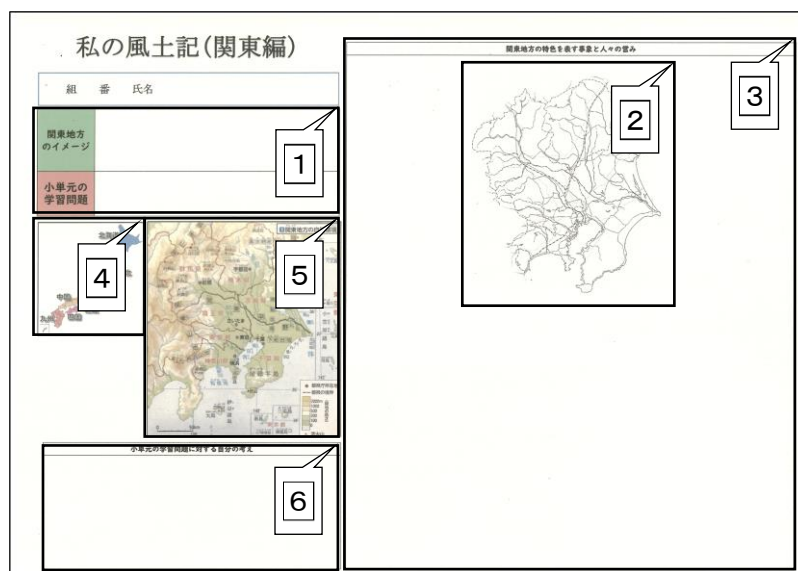


図1 私の風土記

「私の風土記（【地域名】編）」は、一年次の地理的分野「世界の諸地域」において、生徒が地域的特色を大観し、主題について考察するために作成した「(地域名) board」の構造（学習する地域の位置、白地図、行政区分と地形）を踏襲している。このようにすることで、生徒は、日本の諸地域を学習する際にも同様の構造でまとめていく見通しをもつことができるため、必要な情報をまとめやすくなる考える。

変更点は、情報を整理する欄を「自然環境」「人口や都市・農村」「産業」「交通や通信」「歴史・文化」の五つの視点で分けていた表を無くした点と情報を整理する欄に白地図を位置付けた点である。「(地域名) board」に視点ごとの記入欄を設けることで、生徒は必要な情報をまとめたり、視点と視点の関わりを捉えたりすることができた。今回、「日本の諸地域」においては、他地域との相互依存関係や地域内の位置や分布を捉えやすくするために白地図を位置付けた。情報を整理する欄に白地図を位置付けることで生徒は、自ら着目すべき視点を選択し、白地図を用いて情報をまとめ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高めていくと考える。

- (1) 都心への人口集中と、それに関連する特色ある事象から設定した課題を追究するために、必要な情報を選択・整理して「私の風土記（関東編）」にまとめ、人口偏在の要因や影響、持続可能な地域づくりに向けた取組などについて考察し、表現する展開を位置付ける

第1時、教師は、関東地方はどのような地域か尋ねる。生徒は、有名な都市があり、多くの人が住んでいることを挙げるだろう。教師は、「東京都の人口の変化」「関東地方の

人口分布」「東京を訪れる外国人観光客数の移り変わり」の資料を提示し、分かったことや疑問に思ったことを尋ねる。生徒は、戦後東京都の人口が増加し続けてきたことや都心に多くの人口が分布していること、多くの人が外国や地方から関東地方に流入してきていることに気付くだろう。また、なぜ関東地方には人口が集中しているのか疑問に思ったり、人口が集中していることで中国やインドのように都市問題は起きていないのか疑問に思ったりするだろう。そこで教師は、小単元の学習問題「関東地方では、なぜ都心に人口が集中し、人々の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。」を設定する。

生徒は、北海道地方と九州地方の学習を踏まえ、本小単元においても、自ら設定した課題を追究するために「私の風土記（関東編）」にまとめていくことで、関東地方の特色を捉えることができそうだという見通しをもつだろう。生徒は、都心には店や会社がたくさんあって、買い物したり、働いたりするのに便利だからではないかと予想し「関東地方で盛んな産業について調べて、都心に人口が集中する要因をまとめよう。」と課題を設定するだろう。また別の生徒は、都心への人口集中によって人々の暮らしにどのような影響が出ているのか疑問をもち、環境問題などの都市問題が起きているのではないかと予想し、「都市問題による生活の変化について調べよう。」と課題を設定するだろう。

教師は、生徒が設定した課題を振り返りシートに書き、授業の終末に分かったことやさらに追究したいことを記入するように促す（図2）。このようにすることで、次時への見通しをもつことにつながるのではないかと考える。

第2～3時、教師は、教科書や資料集、地図帳、インターネットを用いて「私の風土記（関東編）」に情報を整理する場を設定する。「産業」の視点と関わらせて追究した生徒は、第一

本時の課題（第2時導入時）
関東地方で盛んな「産業」について調べて、都心に人口が集中する要因をまとめよう。

本時の課題（第2時途中）
都心に人口が集中する要因を「交通」網と関わらせて調べよう。

本時の振り返り
関東地方では、第三次産業が盛んで、年間の商品販売額は全国の約50%を占め、その大半が東京都であることがわかった。工業地帯や工業地域もあるため第二次産業も盛んである。都心に人口が集中する要因には「産業」が深く関わっている。「交通」の面では、高速道路や新幹線の路線は各地方から東京に集まってくるように敷かれている。都内はたくさんの路線があり、交通の便が良いため、買い物にきたり、通勤したりするのに便利な地域である。これは、人口が都心に集中する要因といえそうだ。次は人口が集中することによる影響について調べよう。

本時の課題（第3時）
都心への人口集中の影響を環境の面から調べよう。

本時の振り返り
人口の集中によって、郊外や新都心が開発されたり、地価の高騰や住宅不足が起きたりしている。その影響で近年は都心よりも郊外の人口増加率が高いことが分かった。都心に人口が集中する要因や影響について友の調べたことを知りたい。

図2 生徒の振り返りシート（例）

特に第三次産業が盛ん
 商業 ワービス業
 観光産業 … ディズニー
 … スカイタワー
 … 浅草・秋葉原
 年間商品販売額
 274.3兆円(2015)
 全国の47.2% (東京は全国1位)
 観光・買い物ができる
 働く場所がある 要因

1

2

3

4

変化 影響
 都心の人口集中 — 地価の高騰・住宅不足
 ↓
 ・ 郊外・新都心の開発
 (近年は郊外の人口増加率が高い)
 ・ 都心の再開発

図3 私の風土記（例）

次産業から第三次産業に関する資料から、都心に人口が集中する要因や影響に関わる情報を選択し、「私の風土記（関東編）」に整理していく（図3）。そして他地域と比較して、関東地方は第三次産業や第二次産業が盛んであることを、都心に人口が集中する要因としてまとめていこう（図3①・②）。産業の特色から都心に人口が集中する要因をまとめた生徒は、多くの人々が国内外から来ることから、関東地方の交通網にも人口が集中する要因があるのではないかと考え、次の課題を「都心に人口が集中する要因を交通網と関わらせて調べよう。」とし、交通網の発達も人口が集中する要因であることをまとめていこう（図3③）。要因をまとめた生徒は、「都心への人口集中の影響を環境の面から調べよう。」などと課題を立てて、郊外や新都心が新たに開発されていること、地価の高騰や住宅不足などの影響をまとめていこう（図3④）。このように「人口の集中」に関連する特色ある事象から生徒が決めた課題を追究し、情報を選択・整理して、関東地方の地域的特色を考察する。このようにすることで「都心は、それ以外の地域とどのような関係をもっているのだろうか」「なぜそのような結び付きをしているのだろうか」「関東地方と他の地域ではどこが異なっているのだろうか」などの疑問をもち、空間的相互依存作用や地域などに着目した「地理的な見方・考え方」を働かせることができると考えた。

第4時（本時）、教師は、小単元の学習問題を解決するために、都心への人口集中に関連する特色ある事象を問う。生徒は「第三次産業の発展」「交通網の整備」「平野・海沿い」などを挙げるだろう。そこで、教師は、関連する特色ある事象がそれぞれ異なり、事象同士につながりが見られることから、学習課題「関連する特色ある事象を決め出した根拠やその事象同士のつながりについて情報交換し、自分の考えをまとめよう。」を据える。教師は、様々な視点から情報をまとめている4人グループを編成し、生徒は「私の風土記（関東編）」にまとめた情報を基にホワイトボードを用いて情報交換する。

ある生徒は、都心に人口が集中する要因として「産業」「交通や通信」の視点から、第三次産業が盛んなことや交通網の発達など考察した内容を伝えるだろう。また、同じ「産業」「交通や通信」

の視点から、考察した別の生徒は、企業が都心に集中していることや郊外に住んでいる人が多くいることなどを伝えるだろう。さらに、「自然環境」から考察した生徒は、関東平野や太平洋側の気候に触れて考察したことを伝えるだろう（図4）。

このように4人グループで、視点を基に「私の風土記（関東編）」にまとめた情報を伝え合い、都心に









 自分	<p>第三次産業が盛んで、様々な商品やサービスが充実しているから生活しやすいから人口が集中していると思います。人やモノの移動に欠かせない交通網が発達していて、自動車や鉄道、バス、航空機など移動する手段が多いことも生活がしやすく、人口が集中する要因だと思います。</p>
 Tさん	<p>航空網では国内線・国際線の便数が多く、日本各地や世界と結び付きが強い地域だから、国内外の人々が来やすいことも要因だと思います。</p>
 Mさん	<p>交通網の発達は、都営大江戸線など新たに地下鉄の路線が開通している点から、人口が集中したから整備されたともいえるので、人口が集中する要因というよりは、影響ともいえそうです。</p>
 	<p>たしかにそうですね。交通網の発達は、都心に人口が集中する要因でもあり、影響でもありそうです。他に産業の視点からまとめた人はいますか。</p>
 	<p>第三次産業の中でも情報通信産業に関する企業の本社が多く、国の政治の中枢機能が集中している地域でもあるので、経済や政治の中心地となっていることから人々が仕事を求めて来るのではないのでしょうか。</p>
 	<p>働く場所があるということが、人が集まってくる要因なのですね。便利ではありますが、人口が集中することで、地価が高くなったり、渋滞や大気汚染などの都市問題が起きたりして、より良い生活環境を求めて都心よりも郊外に暮らす人々が増えています。近年、東京に集中する機能を分散させる動きが見られ、企業や大学、研究機関が移転するようになったみたいです。</p>
 	<p>そもそもどうして、関東には人が集まるようになってきたのでしょうか。</p>
 Yさん	<p>自然環境から考えると、関東平野が広がっていて、海や川がある場所は暮らしやすく、太平洋側の気候に属していて梅雨はあるが年間を通して暖かいことも人口が集中する要因なのではないかと思います。</p>

図4 4人グループにおける生徒の情報交換（例）

人口が集中する要因や影響を新たな視点から見返したり、同じ視点で考察した別の考えに触れたりすることで、関東地方の地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。生徒はグループで意見交換したことを基に、小単元の学習問題に対する自分の考えを「私の風土記（関東編）」にまとめる（図5）。

関東地方は、平地が多い。温暖で川や海に面している都心は人が生活しやすい地形であり、人々が集まりやすいように高速道路や鉄道網、航空網などの交通網が整備され、日本各地や世界との結び付きが強い地域である。多くの人々が集まることから第三次産業が盛んであるが、地価が高くなったり、都市問題が起きたりしているため、都市機能を分散させる動きが強くなっていることから人々は都心よりも郊外に暮らすようになっている。

図5 小単元の学習問題に対する自分の考え（例）

以上のように、人口偏在による関東地方の人々の暮らしの変化を、関連する特色ある事象から設定した課題を追究するために、必要な情報を選択・整理して「私の風土記（関東編）」にまとめ、人口偏在の要因や影響、持続可能な地域づくりに向けた取組などについて考察し、表現する展開を位置付ける。このようにすることで「地理的な見方・考え方」を働かせ、人口偏在から関東地方の地域的特色を捉えることができると考えた。

(2) 人口偏在を通して捉えた関東地方と中国・四国地方の地域的特色を対比して、人口偏在の要因や影響を人々の営みと関連付けて解釈したことを基に、世界の諸地域で見られる人口偏在に当てはめて考察する活動を位置付ける

教師は、本小単元の後に、関東地方と同じ「人口偏在」を中核とする考察の仕方で中国・四国地方の地域的特色を捉え、関東地方と中国・四国地方で見られる「人口偏在」の要因や影響を対比して、分かることや疑問に思うことをワークシートにまとめるように促す。生徒は、関東地方と中国・四国地方がともに人口分布が偏っているという共通点や、地域によって課題が異なる相違点などをまとめたり、新たな疑問をもったりするだろう（図6）。

このように同じ「人口や都市・農村」を中核とした考察の仕方で追究した関東地方と中国・四国地方を対比させることで、各地方の地域的特色が明らかになり、共通する地理的事象も捉えることができるようになると考えた。

○人口分布が偏っているという特色は同じだが、関東地方では都市問題、中国・四国地方では過疎化が課題となっており、地域によって課題は異なっていることが分かった。また、自然環境の影響を強く受けているのは中国・四国地方だと思う。中国・四国山地があるため、瀬戸内海に面する温暖な地域に人口が集中することで人口分布の偏りが大きくなっている。
○同じように人口分布の偏りが見られる地域でも要因や影響が違っている。それは地形や立地、気候などさまざまな地理的条件によって変わっているのではないかと。

図6 生徒のワークシートの内容（例）

その後、教師は、他に同じような特色がある地域がないかを尋ねる。生徒は世界の諸地域の学習を想起し、「中国も東京都と同じように貿易によって沿岸部に人口が集中していた」などと答えるだろう。そこで教師は、人口偏在に当てはめて世界の諸地域を考察し、分かったことや疑問に思ったことをワークシートにまとめるように促す。生徒は、人口偏在に当てはめて世界の諸地域を考察することで、地域区分を大きくしても同じように見られる事象は人口偏在による一般的共通性となり、特定の地域しか見られない事象は人口偏在による地方的特殊性となることを理解するだろう（図7）。そして、都市問題など人口偏在によって起きている様々な問題について関心をもち、持続可能な地域づくりに向けた取組について単元を通して考察していくと考える。

○アフリカ州やオセアニア州では砂漠には人口が少ないが、温帯に属している国や地域、川や海に面している場所には人口が多いことから、地域の規模に関わらず気候や地形によって人口分布に偏りが見られることが分かった。
○交通網が整備されているヨーロッパ州ではEU加盟国間の移動ができるため、東京と同じように経済が発展している地域に仕事や高い賃金を求めて人々が移動している。しかし、盛んな産業はそれぞれ違っている。

図7 生徒のワークシートの内容（例）

以上のように、人口偏在を通して捉えた関東地方と中国・四国地方の地域的特色を対比して、人口偏在の要因や影響を人々の営みと関連付けて解釈したことを基に、世界の諸地域で見られる人口偏在に当てはめて考察する活動を位置付ける。このようにすることで、人口偏在に見られる一般的共通性と地方的特殊性を理解することができる。と

8 小単元展開 人口偏在から関東地方の地域的特色を捉える学習

全5時間扱い 本時は第4時

段階	◆学習 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆関東地方の地域的特色を追究していくという単元の見通しをもつ。		● [態] (観察・ワークシート)	1
	<ul style="list-style-type: none"> 人口に関する資料を提示し、気付くことを発表するように促す。 アのような反応から、小単元の学習問題「関東地方では、なぜ都心に人口が集中し、人々の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。」を設定し、イのような反応から、自ら追究したい課題を設定し、「私の風土記（関東編）」をまとめていくことを提案する。 	<p>ア 東京都は戦後から 1000 万人も人口が増えていて、都心周辺に人口が集中している。外国人観光客数も年々増えている。人口が集中することで人々の生活に影響は無いのだろうか。</p> <p>イ これまでの地方と同じように学習問題に対する予想から関連しそうな視点を決めて資料を調べ、「私の風土記」に情報を整理していくことで変化の要因や影響がまとめられそうだ。</p> <p>ウ これだけ人口が増加したり、一つの場所に人口が集中したりする要因は何だろう。都心には店や会社が多いので、買い物したり、働いたりするのに便利だからではないか。私は課題を「関東地方で盛んな『産業』について調べて、都心に人口が集中する要因をまとめよう。」と設定しよう。</p>		
展開	◆「私の風土記（関東編）」をまとめ、関東地方の人々の生活を捉える。		○● [技][知] ①②(ワークシート)	2 3
	<ul style="list-style-type: none"> ウのような反応から、教科書、資料集、地図帳、インターネットなどを用いて「私の風土記（関東編）」をまとめるように促す。 エのような生徒の姿を紹介し、疑問に思ったことや、調べたことから、新たな課題を設定し、追究するように促す。 オのような反応から、小単元の学習問題を見返し、要因だけでなく影響も追究することを確認する。 	<p>エ 関東地方では第三次産業が盛んだ。年間の商品販売額は全国の約 50%を占め、その大半が東京都であることが分かった。工業地帯や工業地域が複数あるため第二次産業が盛んで、外国人労働者を受け入れていることも分かった。都心に人口が集中する要因は「産業」が深く関わっている。多くの人が国内外から都心に訪れるということは「交通」網も整備されているはずだ。</p> <p>オ 次の課題を「都心に人口が集中する要因を『交通』網と関わらせて調べよう。」と設定しよう。高速道路や新幹線の路線は各地方から東京に集まってくるように敷かれている。都内はたくさんの路線があり、交通の便が良いため、買い物に來たり、通勤したりするのに便利な地域である。これは、人口が都心に集中する要因といえそうだ。次は人口が集中することによる影響について調べてみよう。アジア州では、人口の集中によって環境問題が起きていたが都心でもありそうだ。</p> <p>カ 人口の集中によって、郊外や新都心が開発されたり、地価の高騰や住宅不足が起きたりしている。その影響で近年は都心よりも郊外の人口増加率が高いことが分かった。</p>		
	本時のねらい：人口偏在から関東地方の地域的特色を捉える。			
	<ul style="list-style-type: none"> 都心への人口集中に関連する特色ある事象を発表する場を設定する。 クのような生徒の反応から、学習課題「関連する特色ある事象を決め出した根拠やその事象同士のつながりについて情報交換し、自分の考えをまとめよう。」を設定し、4人グループで「私の風土記（関東編）」を基にホワイトボードを用いて情報交換する場を設ける。 	<p>キ 「第三次産業の発展」が都心への人口集中に関わる特色ある事象だと思う。</p> <p>ク どうしてMさんは「平野・海沿い」を特色ある事象としたのだろうか。海沿いに位置することで貿易がしやすくなり、第三次産業が発展したのかもしれない。</p> <p>ケ 他の地域と比べて第三次産業が盛んであり、人やモノの移動に欠かせない交通網が発達していることが人口集中の要因となっている。影響として、郊外や新都心が新たに開発されていて、都心よりも郊外の人口が増加傾向にあり、都心は地価が高く、家賃も高いため、交通網が発達している関東地方では郊外に住んで通勤している人が多くなっている。</p> <p>コ 地下鉄の路線と人口増加の関係について調べたMさんの発表から、交通網の発達には人口増加の影響ともいえることが分かった。</p>	5分 25分	4 (本時)

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・スのような生徒の反応から、共有した情報を基に「私の風土記（関東編）」を見返し、小単元の学習問題に対する考えをまとめるように促す。 ・本時の振り返りをするように促す。 	<p>サ さらに Mさんは、第三次産業の中でも情報通信産業に関する企業の本社が多く、国の政治の中核機能が集中している地域でもあるので、経済や政治の中心地となっていると言っていた。</p> <p>シ 「自然環境」から調べた Yさんは、関東平野が広がっていて、海や川がある場所は暮らしやすく、太平洋側の気候で年間を通して温かいことも人口が集中する要因だと発表してくれた。地形や気候も大きな要因といえる。</p> <p>ス Tさんは人口が集中することで、地価が高くなったり、渋滞や大気汚染などの都市問題が起きたりしているから、東京に集中する機能を分散させる動きが見られ、企業や大学、研究機関が移転するようになったことを発表してくれた。様々な視点から関東地方を見ることで、なぜ都心に人口が集中したのか、それによってどのような影響があるのか分かってきた。</p>	15分	○思 (観察・ワークシート)	4 (本時)
		<p>セ 関東地方は、平地が多い。温暖で川や海に面している都心は人が生活しやすい地形であり、人々が集まりやすいように高速道路や鉄道網、航空網などの交通網が整備され、日本各地や世界との結び付きが強い地域である。多くの人々が集まることから第三次産業が盛んであるが、地価が高くなったり、都市問題が起きたりしているため、都市機能を分散させる動きが強くなっていることから人々は都心よりも郊外に暮らすようになっている。</p> <p>ソ 京浜工業地帯と貿易を関わらせて説明していた Nさんのグループの発表から、第三次産業だけでなく、第二次産業も人口偏在に関わっていることが分かった。</p> <p>タ 同じ学習問題でも、それぞれ違う視点から情報を調べていて、関東地方を様々な面から捉えることができた。自分と同じ視点から調べていた Mさんの発表を聞いて、要因だと思っていたことが影響としても捉えられることが分かり、これからの追究でそのような考え方をしようと思った。</p>	5分		

本小単元の後に、中国・四国地方を関東地方と同じ「人口や都市・農村」を中核とする考察の仕方学習する。

終 末	<ul style="list-style-type: none"> ◆関東地方と中国・四国地方で見られる人口偏在の要因や影響の共通点と相違点を世界の諸地域に当てはめて、人口偏在による一般的共通性と地方的特殊性を理解する。 ・関東地方と中国・四国地方の地域的特色を対比して、人口偏在の要因や影響を人々の営みと関連付けて解釈する場を設ける。 ・ツのような生徒の反応から、解釈したことを世界の諸地域で見られる人口偏在に当てはめて考察する場を設ける。 ・日本国内や世界の諸地域で見られる人口偏在による問題について考えるように促す。 	<p>チ 自然環境の影響を強く受けているのは中国・四国地方だと思う。中国・四国山地があるため、瀬戸内海に面する温暖な地域に人口が集中することで人口分布の偏りが大きくなっている。人口分布が偏っているという特色は同じだが、関東地方では都市問題、中国・四国地方では過疎化が課題となっており、地域によって課題は異なっていることが分かった。</p> <p>ツ 同じように人口分布の偏りが見られる地域でも要因や影響が違っている。それは地形や立地、気候などさまざまな地理的条件によって変わっているのではないか。</p> <p>テ アフリカ州やオセアニア州では砂漠には人口が少ないが、温帯に属している国や地域、川や海に面している場所には人口が多いことから、地域の規模に関わらず気候や地形によって人口分布に偏りが見られることが分かる。</p> <p>ト 人口が集中することによって起きる問題と人口が減少することによって起きる問題、どちらもその地域にとって解決しなければならない問題だと思う。どうすれば解決できるだろうか。</p>	○思 (観察・ワークシート)	5
		<p>チ 自然環境の影響を強く受けているのは中国・四国地方だと思う。中国・四国山地があるため、瀬戸内海に面する温暖な地域に人口が集中することで人口分布の偏りが大きくなっている。人口分布が偏っているという特色は同じだが、関東地方では都市問題、中国・四国地方では過疎化が課題となっており、地域によって課題は異なっていることが分かった。</p> <p>ツ 同じように人口分布の偏りが見られる地域でも要因や影響が違っている。それは地形や立地、気候などさまざまな地理的条件によって変わっているのではないか。</p> <p>テ アフリカ州やオセアニア州では砂漠には人口が少ないが、温帯に属している国や地域、川や海に面している場所には人口が多いことから、地域の規模に関わらず気候や地形によって人口分布に偏りが見られることが分かる。</p> <p>ト 人口が集中することによって起きる問題と人口が減少することによって起きる問題、どちらもその地域にとって解決しなければならない問題だと思う。どうすれば解決できるだろうか。</p>		